

安全の手引き

2015年2月改訂

在シカゴ日本国総領事館

目次

はじめに	・・・・・・・・ 1
I 最近の治安情勢	・・・・・・・・ 1
1 シカゴ市	・・・・・・・・ 1
2 シカゴ市近郊の町	・・・・・・・・ 2
3 州別治安情勢	・・・・・・・・ 2
II 安全対策	・・・・・・・・ 6
1 安全対策の基本的な心構え	・・・・・・・・ 6
2 防犯のための具体的な注意事項	・・・・・・・・ 7
3 交通事故対策	・・・・・・・・ 11
4 法律・習慣の違いによるトラブル	・・・・・・・・ 13
III テロ、大規模自然災害等緊急事態発生時の対応	・・・・・・・・ 16
1 在留届の提出	・・・・・・・・ 16
2 平素の準備	・・・・・・・・ 17
3 発生時の措置	・・・・・・・・ 17
4 テロ関係	・・・・・・・・ 17
5 オンライン安否照会システム	・・・・・・・・ 18
6 たびレジ	・・・・・・・・ 19
7 シカゴ地域緊急連絡先	・・・・・・・・ 19
別表1 緊急事態に備えてのチェックリスト	・・・・・・・・ 20
別表2 管轄区域内主要都市の罪種別犯罪発生状況	・・・・・・・・ 21

～ はじめに ～

近年、海外へ渡航する日本人の増加に伴い、日本人が事件・事故や自然災害に巻き込まれるケースが後を絶ちません。犯罪や交通事故は日々発生しており、また、テロや巨大ハリケーン等の自然災害など、米国においても一度に多数の死傷者が出る事態が現に発生していることから、安全確保は海外で生活する誰もが検討しなければならない重要な課題です。

事件・事故等に巻き込まれないためには、日頃から安全情報に関心を持ち、地域の治安情勢を把握の上、安全対策の基本的な留意事項を守って行動することが大切です。

この手引きが、当館管轄区域内に居住する在留邦人の皆様の安全な海外生活の一助となれば幸いです。

I 最近の治安情勢

1 シカゴ市

シカゴ市警が発表した2014年の犯罪統計によれば、シカゴ市内における主要な犯罪の総発生件数は約5万8千件で、前年と比較して約13%減少しました。これで、シカゴ市の総犯罪発生件数は5年連続で減少しましたが、強盗、侵入盗、乗り物盗が20%近く減少している一方で、強姦及び傷害事件は微増し、殺人事件の減少は3%にとどまるなど、近年の減少傾向に陰りが見られます。また、けん銃発砲件数は、前年と比べ12%増加しています。

※ 2014年シカゴ市における罪種別犯罪統計（シカゴ市警発表）

罪種	発生件数	2013年比
殺人	407件	3%減
強姦	1,479件	4%増
強盗	9,811件	17%減
傷害	6,470件	2%増
侵入盗	14,549件	19%減
窃盗	15,028件	4%減
乗り物盗	10,089件	20%減
合計	57,863件	13%減
けん銃発砲事件	2,084件	12%増

2 シカゴ市近郊の町

在留邦人が多数居住しているアーリントンハイツ、シャンバーグ、ホフマンエステイツ等のシカゴ市郊外の治安は、シカゴ市と比べてはるかに良好ですが、乗り物盗や車上狙い等の財産犯罪は日常的に発生しています。

特に、シャンバーグは財産犯罪の発生率（人口10万人当たりの発生件数、以下同じ）が全米平均より高く、シャンペーンは、凶悪犯罪の発生率が全米の2倍以上であるほか、財産犯罪の発生率も全米平均を上回っています。

※主なシカゴ近郊の町の犯罪発生件数及び発生率（FBI公表2013年統計）

	凶悪犯罪 (件数)	凶悪犯罪 (発生率)	財産犯罪 (件数)	財産犯罪 (発生率)
Arlington Height	42	55.3	800	1,052.9
Buffalo Grove	8	19.2	333	797.1
Champaign	654	788.3	2,275	2,742.1
Elk Grove Village	25	74.8	624	1,867.5
Hoffman Estates	55	104.9	548	1,045.4
Schaumburg	71	94.7	2,176	2,903.7
United States Total	1,163,146	367.9	8,632,512	2,730.7

注1：凶悪犯罪：殺人，強盗，強姦，傷害

注2：財産犯罪：侵入窃盗，窃盗，乗り物盗

注3：発生率は，人口10万人当たりの発生件数

3 州別治安情勢（2013年統計）

FBIが公表している犯罪統計を基に在留邦人が多く居住している主要都市を抜き出した一覧表を作成して別紙にしましたので，参考にして下さい。

(1) イリノイ州

州全体では，主要な犯罪の発生件数が全て前年と比べて減少しています。凶悪犯罪の発生件数は前年比10.4%減少していますが，発生率は依然として全米平均を上回っており，管轄10州の中でもミズーリ州に次いで高い水準です。特に，殺人及び強盗の発生率は全米平均の約1.3倍と高くなっています。財産犯罪の発生件数は，前年比11.9%減少し，発生率も全米平均を下回っています。

(2) インディアナ州

ア 州全体では，凶悪犯罪の発生件数が前年に比べて2%増加する一方，財産犯罪の発生件数は5.3%減少しています。犯罪発生率に関しては，凶悪犯罪については全米平均を下回っていますが，財産犯罪は全米平均を若干上回っていますので，盗難や侵入窃盗に対する注意が必要です。主な罪種別では，殺人が15.6%，強盗が7.7%，

乗り物盗が4.2%前年に比べ増加しています。

イ 在留邦人が多い都市では、インディアナポリスの凶悪犯罪の発生率が全米平均の約3.3倍、財産犯罪の発生率は約2倍であり、それぞれシカゴ市の約2倍の発生率です。このほか、エバンスビル、グリーンウッド、ラファイエット、セイモアで凶悪犯罪の発生率が全米平均を上回っており、ブルーミントン、コロンバス、エバンスビル、グリーンウッド、ラファイエット、セイモアでは、財産犯罪が全米平均を上回っていることから注意が必要です。

(3) アイオワ州

ア 州全体では、犯罪発生件数は減少しており、主要な犯罪の発生率は全米平均を下回っていますが、傷害事件と乗り物盗が前年比で若干増加しています。

イ 在留邦人が多いアイオワシティーは凶悪犯罪、財産犯罪とも犯罪発生率は全米平均を下回っていますが、シーダーラピズでは財産犯罪の発生率が全米平均を約30%上回っています。また、州都デモインは、凶悪犯罪が約1.3倍、財産犯罪が約1.7倍、ダベンポートでは凶悪犯罪が約1.7倍、財産犯罪が約1.5倍と発生率が全米平均を大きく上回っています。

(4) カンザス州

ア 州全体では、殺人事件以外の主要犯罪の発生件数が減少しましたが、殺人事件は2012年の85件から2013年は112件と約32%増加しました。凶悪犯罪の発生率は全米平均を下回っているものの、財産犯罪の発生率は全米平均を若干上回っています。罪種別では、強姦及び窃盗の発生率が全米平均より高くなっています。

イ 在留邦人の多いオーバーランドパークは犯罪発生率が低いものの、州の中心都市ウィチタは凶悪犯罪、財産犯罪とも発生率が全米平均の約2倍となっています。そのほか、ローレンスやトペカも凶悪犯罪、財産犯罪の発生率が全米平均を大きく上回っており、注意が必要です。

(5) ミネソタ州

ア 州全体では、凶悪犯罪、財産犯罪ともに発生件数が前年に比べ若干減少しました。(それぞれ2.6%及び5%減) 犯罪発生率は凶悪犯罪、財産犯罪ともに全米平均を下回っていますが、強姦の発生率は全米平均を若干上回っています。また、罪種別の発生件数では、殺人が前年に比べて約15%、強盗が約14%それぞれ増加しています。

イ 在留邦人が多く住む経済の中心都市ミネアポリス及び政治の中心都市セントポールのいずれも、犯罪発生率は非常に高く、注意が必要です。全米平均と比べて、ミネアポリスは、凶悪犯罪の発生率が約2.7倍、財産犯罪の発生率が約1.8倍、セントポールは全米平均と比べて、凶悪犯罪の発生率が約2倍、財産犯罪の発生率が約1.4倍となっています。このほか、セントクラウドでは、財産犯罪の発生率が全米平均の約1.6倍と高くなっています。

(6) ミズーリ州

ア 州全体では、凶悪犯罪、財産犯罪ともに発生件数が前年に比べ若干減少し、罪種別でも強姦以外の全ての犯罪の発生件数が前年に比べて減少しています。しかし、犯罪発生率は高く、凶悪犯罪、財産犯罪ともに全米平均を上回っており、罪種別でも、強盗以外の主要な犯罪の発生率が全米平均を上回っています。

イ 州の中心都市であり在留邦人も多く居住するカンザスシティ及びセントルイスでは、犯罪発生率が全米平均を大きく上回っており、注意が必要です。全米平均と比べて、カンザスシティは、凶悪犯罪の発生率が約 3.4 倍、財産犯罪の発生率が約 1.9 倍、セントルイスは、凶悪犯罪の発生率 4.3 倍、財産犯罪の発生率が約 2.4 倍となっています。このほか、スプリングフィールドは、凶悪犯罪の発生率が全米平均の約 3.2 倍、財産犯罪の発生率は約 3.3 倍と高く、ケーブジラルデュー、コロンビアなどの都市も財産犯罪の発生率が高いことから注意が必要です。

(7) ネブラスカ州

ア 州全体では、凶悪犯罪及び財産犯罪ともに発生件数が前年に比べて減少しました。(それぞれ 1.9%、4.3%減) 犯罪発生率は比較的 low、凶悪犯罪が約 32%、財産犯罪が約 4% 全米平均を下回っています。しかし、強姦の発生率は、全米平均の 1.3 倍と高くなっています。また、罪種別の発生件数では、前年に比べて殺人 (9.6%)、傷害 (3%)、侵入盗 (1.8%) 及び自動車盗 (7.4%) が増加しました。

イ 在留邦人が多く住む州の中心都市オマハ及び州都リンカーンは犯罪発生率が全米平均より高く、オマハにおける凶悪犯罪及び財産犯罪の発生率は全米平均の約 1.5 倍です。

(8) ノースダコタ州

ア 州全体では、凶悪犯罪、財産犯罪ともに発生件数が前年に比べ増加しました。(それぞれ 7.6%及び 6%増) 罪種別の発生件数でも、殺人及び強姦以外の主要な犯罪が前年よりも増加しました。犯罪の発生率は比較的 low、多くの主要な犯罪の発生率が全米平均よりも下回っていますが、強姦に関しては、全米平均の約 1.3 倍となっています。

イ 州の中心都市であるファーゴにおける犯罪発生率は全米平均と比べて若干高いものの、邦人が多く居住する都市の治安は比較的良い状況です。

(9) サウスダコタ州

ア 州全体では、凶悪犯罪、財産犯罪共に発生件数が前年に比べ減少しました。(ともに 6.6%減) 犯罪発生率は比較的 low、全米平均に比べ凶悪犯罪は約 19%、財産犯罪は約 30% 低くなっています。罪種別の発生件数では、強盗、傷害、侵入盗が増加しました。

イ 4人の大統領の石像で有名なマウント・ラッシュモアがあり邦人観光客も多く訪れるラピッドシティは、犯罪発生率が高く、注意が必要です。同市では、全米平均と比べて、凶悪犯罪の発生率が約1.5倍、財産犯罪の発生率が約1.4倍となっています。このほか、州都スーホールズは、凶悪犯罪、財産犯罪の発生率が全米平均より若干高めです。

(10) ウィスコンシン州

ア 州全体では、凶悪犯罪、財産犯罪ともに発生件数が前年に比べ減少しました。(それぞれ4.2%、10.7%減) 犯罪発生率は比較的 low、凶悪犯罪が約27%、財産犯罪が約20%全米平均を下回っていて、全米平均よりも発生率が高い特定の犯罪もありません。罪種別の発生件数では、前年に比べて、強姦が5.5%、強盗が3%増加しました。

イ 州の中心都市であり在留邦人も多く居住するミルウォーキーは、犯罪発生率が高く、注意が必要です。同市では、全米平均と比べて、凶悪犯罪の発生率が約3.7倍、財産犯罪の発生率が約1.6倍となっています。州都マディソンについては、凶悪犯罪の発生率は全米平均より若干低いものの、財産犯罪の発生率は約1.2倍となっています。

II 安全対策

1 安全対策の基本的な心構え

- (1) 自分と家族の安全は、まず自分たち自身で守るという意識を持つ。
- (2) 常に最悪の事態を想定して準備を行う。
- (3) 住居の安全を確保することは生活の基礎となるため、ホテル、住居選びには安全性を最優先する。
- (4) 普段から、隣人やコミュニティ等と良好な人間関係を築くように努め、情報交換を行う。
- (5) 新聞、テレビ、インターネット等により、現在どのような犯罪が発生しているのか治安情報の収集に努める。

※多くの自治体や警察署がホームページに犯罪情報や犯罪統計を掲載しています。お住まいの地域の自治体や警察署のホームページを是非一度確認して下さい。

公的機関のホームページ以外でも、「CRIMEMAPPING.COM」や「CrimeReport」などのサイトでは、地図上で犯罪発生状況を確認することが出来ます。また、不動産会社のホームページなどにも犯罪情報が掲載されていることがあります。

【例：イリノイ州シャンバーグ警察による防犯情報】

シャンバーグ警察署のウェブサイト上には、同警察署管轄内で発生した犯罪情報や防犯上の注意事項に関するニュースレターが掲載されています。

◇ニュースレターの確認方法◇

- ① <http://www.ci.schaumburg.il.us> を開く
- ② 上部の Learn About から Public Safety をクリック
- ③ 左側の Crime Prevention Newsletter をクリック

(6) 「安全のための3原則」

①目立たない：

場違いな服装、装飾品、高級車を避ける。カメラを首から下げたり、地図を広げて歩いたりして、いかにも旅行者という印象を与えない。

②行動を予知されない：

違う道、違う時間を選んで通勤する等、行動をパターン化しない。

③用心を怠らない：

慣れた頃が要注意。

2 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居の防犯対策

ア 居住地域の選定

一般的には、次のような地域の治安はあまりよくないことが多いので、注意してください。

- 昼間なのに、男達が仕事もしないでたむろしている。
- 商店の入口や窓が鉄格子で頑丈に守られている。
- 道路にゴミが散乱しており、壁に落書きが多い。

イ 家の選定

次のような家は防犯上弱いといえますので注意してください。

- 表通りから見えない家。
- 塀や樹木等により外部からの死角が多い家。
- 夜間、周辺の照明が十分でなく、周囲が暗い家。
- アパート、マンションの場合、不審者が入ってこないよう、なるべく入口に警備員またはドアマンがいる物件を探す。

ウ 平素の防犯措置

- 常に戸締りの確認をする習慣をつける。
- 家の鍵を植木鉢や玄関マットの下に置いたりしない。
- 出入口や窓は、可能であれば、複数の錠や鎖等で強化する。
- 来客があっても、すぐにドアを開けない。必ずのぞき穴から相手を確認する。子供にもその旨言い聞かせる。
- 玄関や庭先には、十分な照明を取り付ける。人や物の動きに反応するセンサー式のライトは防犯上有効。
- 不在家庭と悟られないように、夜間、タイマーにより家屋の照明を点灯させる等の工夫をする。
- 長期間留守にする際は、信用のおける近隣の人に注意を払ってもらうようお願いする。また、新聞、郵便物の配達を中断する手続きをする。

(2) 外出時の防犯対策

ア 貴重品の管理

- 多額額の現金は持ち歩かないようにする。
- 現金はできるだけ複数の財布やポケットに分散して持つ。
- 人前でむやみに財布や現金を手にしらない。
- 旅券を所持する場合は、体から離さず、常に身に付けるようにする。
- ズボンの後ろポケットに入れた財布はスリの恰好の標的となるので、財布は胸ポケット等にしまう。
- ポシェット、リュックサックなどは、気付かないうちに背後からナイフで切ら

れることもあるので、貴重品は入れない。特に人混みの中では体の前に抱えるように所持する。

イ 移動時

- 深夜、早朝の一人歩きはできるだけ避ける。特に女性は注意。やむを得ず徒歩で外出する場合は、人通りの少ない所、街灯のない暗い所は通行しない。
- 犯罪が多発している地域にはたとえ昼間、車であっても近づかない。
- 知らない者が呼びかけてきたり、近づいてきたりした場合、たとえ一見親切そうな相手でも、警戒を怠らない。スリ集団は、呼びかけて注意を引く者、その隙にスリを行う者など任務分担して犯行に及ぶ。
- iPod 等を使用して音楽を聞きながら、あるいは携帯電話を使用して通話やメールしながら歩いているときには、周囲の状況がおろそかになり、気がついたときには強盗グループに囲まれたり、ひったくりに遭ったりすることがあるので、十分注意する。iPod 等のデジタルオーディオ機器やスマートフォンはオークション等で売れるため、強盗などに狙われやすいので注意が必要。

ウ レストラン、ホテル、空港等

- レストランや空港待合室など公共の場所では、たとえ短時間でも、荷物を床や机、椅子などに置いたまま席を離れない。
- ホテルのチェックイン等で手荷物を床等に置かざるを得ない場合は、知人に見張りを頼むか、両足で挟むようにする。
- ホテルでは、貴重品はセーフティボックスに預ける。
- ホテルで来客があっても、不用意にドアを開けず、必ずのぞき穴から相手を確認する。

エ 被害に遭ったときは

- 万が一、強盗に遭った場合は抵抗しない。また、ひったくりに遭った場合も引きずられる危険があるので、抵抗せず荷物から手を離す。犯人は狙った物はなんとしても盗んでいこうとするため、自分の身の安全を第一に考える。
- ジャケットの内ポケットから財布を取り出そうとする等、武器を取り出すと犯人に誤解されるような行動は取らず、現金の位置を示して、犯人に取らせる。
- 可能な範囲で、犯人の顔、人種、年齢、背丈、体格、髪型、服装、言動、車のナンバー等を記憶し、警察に通報する。

(3) 自動車使用時の防犯対策

ア 運転中

- 危険地域を通過する際は、ドアロックを確認し、窓を閉め、中央寄りの車線を通行する。
- 見知らぬ者に停止を求められても、絶対に応じない。
- 自分の車に素性の分からない者の同乗を許可すること及び見知らぬ相手の車両に安易に同乗することは絶対に避ける。

- 信号待ち等で停車中も周囲の状況に注意する。信号待ち中に窓が開いている車を狙う強盗もいる。

イ 駐車の際

- 駐車する際は、できるだけ明るい場所を選び、人気のない暗い場所は避ける。可能であれば路上駐車を避け、係員がいる駐車場にする。
- 車から離れる際は、貴重品はできるだけ携帯する。GPS ナビゲーションや、iPod 等は、接続コードを含めて取り外しておく。
- やむを得ず車内に荷物を残しておく場合は、トランク内などの車外から見えない場所に移す。その際も、誰かに見られていないか用心する。
- パーキングメーターの支払い、ガソリンスタンドでの給油等、たとえ短時間の停車、駐車であっても、車から離れる場合は必ずドアをロックする。
- 車の乗り降りの際は、周囲に不審者がいないか確かめる。ドアを開けた瞬間を狙う強盗もいる。

(4) 最近増加している犯罪への対策

ア ID盗

米国ではクレジットカード及びデビットカードが広く普及しており、大変便利ですが、他方、カード情報がさまざまな手口で盗み出され、悪用される ID 窃盗の被害が急増しています。こうした被害を防ぐためには、情報漏洩を未然に防ぐ対策を講じることが必要です。

- デビットカードやクレジットカードの暗証番号を設定する際は、容易に推測できるようなもの（誕生日、電話番号等）は避ける。
- フィッシング詐欺に注意し、電話やインターネットで個人情報を聞かれた場合は、安全性に確証が持てない限り、絶対に教えない。
- 郵便物を出すときは、郵便局等のポストを利用して確実に投函し、また、自宅の郵便受けから郵便物が盗まれないよう、鍵付きの郵便受けを使用する。
- レシート、銀行口座明細、クレジットカード明細、小切手等の個人情報が含まれた書類等を捨てるときは、復元できないように、細かく破るか、シュレッダーにかける。ゴミ箱をあさって、個人情報を盗んで転売する泥棒もいる。
- クレジットカードやデビットカードの明細は、毎月必ずチェックし、不正な利用がないか確認する。
- ソーシャル・セキュリティ・カードは、持ち歩かない。
- パソコンにはウイルス対策ソフトを導入し、常に最新の状態に保つ。
- インターネットを利用する際は、ファイアーウォールを確実に有効にし、不正侵入されないようにする。
- 心当たりの無いメールに記載されたリンク先を開いたり、添付されたファイルを開いたり、プログラムをダウンロードしたりしない。
- パソコンを廃棄する場合、ハードディスク内の個人情報を完全に消去する。

イ 振り込め詐欺

日本では振り込め詐欺の被害が多発していますが、米国においても電話やインターネット、手紙を利用した様々な詐欺事件が発生していますので、ご注意下さい。特によくあるのは次のような事案です。

【事案A】米国内歳入庁（IRS）詐欺

米国内歳入庁（IRS：The Internal Revenue Service）を騙った電話やメールによる詐欺事件は、全米各地で発生しており、社会保障番号や銀行の口座番号、クレジットカード番号などを聞き出したり、ありもしない税金の滞納分や罰金などをデビットカードや銀行送金で振り込ませて金を騙し取ったりします。

被害者が個人情報の提供や現金の振り込みを拒否しても、警察に通報すると脅したり、繰り返し電話をかけて信じ込ませようとしたりします。さらに、偽電話を補強するために詐欺グループが警察や陸運局を騙って電話をかけてきたりするケースもあります。

【事案B】知人を装った者からの旅先で盗難に遭ったとの相談

知人を装った犯人がメールで「旅先で盗難に遭い、所持金もクレジットカードも全てなくなった。代金をホテルに払わないとホテルから出してもらえず、このままでは飛行機に乗ることができないので助けて欲しい」等と申し立て、送金を要求する手口です。

犯人は、何らかの方法で第三者のメールアカウントを不正に取得し、それを悪用しているものと思われます。その不正取得したメールアカウントのアドレス帳、あるいは送受信履歴を利用してメールを送付してくるため、一見して本当に知人からメールが来たかのように思われるので注意が必要です。

お金を要求してくる不審なメールが届いたときは、慌てて送金せず、落ち着いて以下のように対処して下さい。

- メールの体裁や言葉遣いが、普段のその人からのメールと比べて不自然な点がないか注意してよく読んでみる。
- メール送信元である知人の電話番号を知っている場合は、実際に本人に電話してみる。（メールを返信した場合、知人になりすました犯人がそれに呼応することがありますので、確認にはなりません。）
- 本人の電話番号がわからない、または電話しても連絡がとれない場合は、相手の職場等、相手をよく知っている人に本当にその旅先に行っているか等を確認する。
- 同じ内容のメールが他の知人等に送信されていないか確認する。（アドレス帳を利用した一斉送信の場合は、他の知人にも同じ内容のメールが来ている可能性が高い。）

【事案C】遺産相続詐欺

英国等に実在する大手銀行のChief Financial Officerを名乗る者から、ビルマ（文面のまま。現在のミャンマー。）で亡くなった日本人一家（手紙の送付先と同じ名字）の遺産について、相続人が判明しなかったことから現在口座が凍結されており、あなたを遺産相続人として手続きを開始したいので、連絡いただきたいとの手紙が届き、相手方の要求に従って相手に連絡を取った場合、遺産の現金化や海外送金の手数料、税金等の名目で多額の送金を求められ、送金後、全く相手方と連絡が取れなくなり、お金を騙し取られるという手口です。

犯人は、何らかの方法で不正入手した在留邦人の個人情報に基づき、それらしく装った手紙を書いていると思われます。

万が一、このような手紙を受け取ったときは、不用意に対応することなく、詐欺の疑いがあるのではないかと冷静に考えることが重要です。例えば、これまでの事例では、大手銀行からの手紙であるにもかかわらず、会社名等が入ったレターヘッドが使用されておらず、また、封筒や紙は汎用品と思われるものが使用され、繰り返しコピーされたように印刷が非常に荒く、さらに相手のEメールアドレスのドメインがフリーメールのもの（@live.com）であるなど、不審な点がいくつもありました。

3 交通事故対策

米国の年間交通事故死者数は日本の6倍以上であり、非常に多くの死亡事故が発生しています。死亡事故の30%以上が飲酒に起因しており、主要な事故原因となっています。

車社会の当地では、車の運転は生活にどうしても必要ですが、運転にはくれぐれもご注意ください。

（1）運転の際の留意事項

ア 日本との交通ルールの違いを理解する。例えば、米国においては多くの州で、赤信号においても、標識で禁止されている場合を除き、安全が確認できれば右折できる。

イ 速度の出し過ぎには十分に注意する。特に、高速道路では大型トラックが頻繁に通行しており、無理な追い越しは大きな危険を伴う。

ウ シートベルトを必ず着用する。万が一事故に遭った場合、シートベルトを着用していたか否かで、生存率が大きく異なる。

エ シカゴ市内における運転中の携帯電話の使用禁止

シカゴ市内では、911番などの緊急番号に通話中の者を除き、携帯電話を手に持って使用しながら運転することが禁止されている。通話する際は、安全な場所に停車して行う。どうしても運転中に電話に応答する必要があるときは、外部スピーカーやマイク付イヤホン等のハンズフリー機器を使用する。

オ イリノイ州における運転中の携帯電話メールの禁止

イリノイ州では、運転中の携帯電話メールが禁止されている。州当局は、運転中のメール操作は違法なだけでなく、危険であると警告している。

※米国においては、各州、各自治体で法律が異なるため、お住まいの地域で運転中の携帯電話の使用が禁止されているかどうかは確認していただく必要がありますが、禁止する法律の有無にかかわらず、運転中の携帯電話の使用はどうしても注意散漫になりやすいので、事故に遭わないためにもくれぐれもご注意ください。

(2) 飲酒運転について

イリノイ州を含む米国のほとんどの州においては、21歳以上で血中アルコール濃度が0.08%以上（営業車の運転手は0.04%以上）の場合違反となっています。21歳未満は僅かな飲酒でも違反となります。また、16歳未満の未成年者が同乗している場合は悪質な飲酒運転と見なされます。さらに、イリノイ州においては、栓の開いたアルコール飲料を車両内に置いて運転した場合、たとえ飲酒していなくても、罰則は最高1,000ドルの罰金及び1年間の免許停止となっています。

「日本と違ってアメリカでは酒気帯び運転検挙の基準が甘いので、ある程度の飲酒は大丈夫」という認識は誤りです。たとえば、BAC検査値（血中アルコール値）が基準以下でも、正常な運転ができないと警察官に判断されれば検挙されます。

飲酒運転で検挙された場合、警察に逮捕・拘留され、免許停止、車両登録の禁止、罰金等非常に厳しい措置がとられます。このほか、裁判費用や自動車保険が跳ね上がる等、飲酒運転をしたがために被る精神的、金銭的不利益は大きく、さらに飲酒運転により、人身事故を起こした場合取り返しのつかないこととなります。

酒気を帯びると正常な判断能力が低下することは科学的に立証されており、飲酒しての運転は非常に危険です。在留邦人の皆様にあつては、普段から安全運転に心掛けておられることと思いますが、改めて「飲んだら乗らない」を厳守し、飲酒運転を行わないようお願いします。

(3) 冬の運転の留意事項

- ア 路面凍結時は、急ハンドル、急ブレーキ、急発進等、「急」の付く操作はしない。
- イ 冬期から春先にかけて、道路にしみこんだ水の凍結が原因で道路がひび割れし、道路に大きな穴が空くことが多いので、道路状況をよく見て運転する。特に見通しの悪い夜間は要注意。
- ウ 厳冬期に車が故障し、動けなくなると、凍死等生命の危険にさらされるおそれがあるため、携帯電話及び車載充電器を携行し、万が一に備える。また、燃料は常に半分以上入れておく。バッテリー上がりに備えて、ブースターケーブルを積載しておく。防寒着や毛布を積んでおくと、万が一のときに役に立つ。
- エ ブリザードの予報が出たときは、ブリザードが到達する前に運転を終えられるよう、余裕を持って帰宅する。ブリザードに巻き込まれると、道路が閉鎖され、動けなくなる可能性がある。

(4) 交通事故発生時の措置

- ア 負傷者がいるときは、911 番に電話して救急車を呼ぶか、他の車を止める等して救急車に連絡してもらう。負傷者を動かせると判断できれば、安全な場所に避難させる。
- イ 事故車両が交通の妨害になっている場合には、当事者同士が事故の場所を確認した上で、車を路肩側に移動させる。この際、双方の車両の位置と車の衝突個所に印を付けるか、写真撮影、スケッチ等をして、現場の再現ができる措置をとる。ガソリンが漏れている等の危険な状況であれば、車両を移動させず、当事者全員が遠くに避難する。
- ウ 目撃者がいれば確保する。
- エ 911 番に電話して警察に通報し、現場検証を依頼する。
- オ 車のトランクを開け、事故車であることを他の車に分かるようにし、追突等の二次事故を防止する。
- カ 事故当事者同士は安全な場所に移動し、お互いに運転免許証や身分証明書等で相手の氏名、住所、電話番号、勤務先、車両登録番号、保険会社名、証券番号、保険会社の連絡先などをメモする。その際、相手の書類にサインしたり、自分の過失を認める言動をしたりしない。
- キ 保険会社に電話し、手続きについて指示を受ける。
- ク 警察官が到着後、当事者双方が現場検証に立ち会う。

(5) パトカーが後方からライトを点滅して近づいてきたら

- ア 速やかに道路脇へ停車する。
- イ パトカーがあなたの車の後方で停車したときは、警察官が出てきてあなたに近づいてくるまで待つ。警察官はまず車のナンバー等について警察署に報告等を行ってから出てくるため、数分から 10 分くらい待つ必要がある。その間、自分から車を出てパトカーに近づくことは警察官への敵対行為と見なされるおそれがある。
- ウ 武器を所持していると誤解されないように、両手はハンドルの上に置いたままにし、勝手にダッシュボードを開けたり、鞆を開いたりしない。
- エ 警察官の指示に従い、質問に対して協力的に対応する。

4 法律・習慣の違いによるトラブル

日本ではほとんど問題とならない行為でも、米国では犯罪として厳しい処罰の対象になることがあります。特に家族や子供に対する考え方が日米で大きく異なりますので、十分注意してください。

(1) 家庭内暴力 (Domestic Violence : DV)

- ア 夫婦喧嘩や親子喧嘩であっても、周囲に聞こえるような大声を上げたり、騒いだりすることは、隣家から家庭内暴力 (ドメスティック・バイオレンス) と捉えられ警察に

通報されることがあります。米国においては、家庭内暴力に対して日本と比較にならないほど厳しい施策がとられており、当事者双方の意思と関係なく、当事者の一方が逮捕されることがあります。

イ 被害に遭った場合、一番大切なのは、ご自身及び子供の身の安全です。被害を受けたときは、DV支援団体等に相談し、身の危険を感じたときは、躊躇することなく911番に電話し、警察を呼んでください。また、当館においても相談を受け付けていますので、一人で悩むことなく、お電話で結構ですので、総領事館にご相談ください。

自分ではDV被害に遭っているかどうかわからないという場合でも、配偶者や交際相手から身体的、精神的な暴力を受けたという方は、一度ご相談ください。もちろん、プライバシーには十分配慮いたします。

ウ 警察を呼んだ場合、通常、警察は仲裁等を行わず、現在そこにある危険を排除するため、加害者を逮捕、拘束します。その後、いつ釈放されるかは事案の内容によりますが、釈放後も、多くの場合は、裁判所から接近禁止令が出され、加害者は被害者に近づくことを禁止されます。配偶者や交際相手が逮捕されることに抵抗を感じ、警察への通報を躊躇される方もいるかもしれませんが、身を守るためには警察への通報が一番の方法です。また、DVを事件化することは、後に離婚、子の親権に関する裁判に発展した際に重要な要素となります。

エ 米国では各地にDV支援団体があります。まずは全米DVホットライン

(National Domestic Violence Hotline) 1-800-799-7233,

<http://www.thehotline.org/>

にアクセスして、最寄りの相談所、シェルターの紹介を受けることをお勧めします。同ホットラインでは、英語が堪能でない方のために外国語による相談も受け付けているとのことです。DV支援団体では法的アドバイスを受けることや弁護士の紹介を受けることも可能です。

(2) 児童虐待について

ア 「児童虐待」に関する規定は各州によって異なりますが、イリノイ州では、6歳未満の子供を車両内に監護者なしで10分以上残すことは法律で禁止されています。6歳以上であっても、客観的にみて危険性があると判断される場合は、児童虐待等として警察に通報される場合があります。

イ イリノイ州では小さな子供を家に一人で残すことを直接禁止する法律はありませんが、常識的に自分自身で適切な判断・行動ができる年齢までは親の保護が必要と考えられています。特に、14歳未満の子供を家に一人で残した際に、子供の身体や精神に危険が発生した場合は育児放棄または児童虐待の容疑がかけられることがあります。

子供を一人で留守番させることができる目安は、どのような事態が発生しても子供自身の判断で身を守る、保護を求める等適切な行動をとることができることです。911番への通報や警察官、その他の人に対して英語で適切な対応ができることは最低条件

といえます。

ウ 上記以外にも、公衆の面前で子供に対して大声を出すなど過度と捉えられるしかり方は虐待行為と見なされ、また、たとえ子供が小さくても父親が娘と一緒に入浴したり、入浴中の写真を撮ることは性的虐待行為としてそれぞれ処罰の対象となる可能性があります。

(3) 子の親権問題

子供がいる家庭において、DV被害から身を守るため、あるいは婚姻生活が破綻したため子供を連れて日本に帰ろうと思う方もいるかもしれませんが、米国においては、他の親権者の同意なく子供を国外へ連れ出すことは誘拐罪や子の親権妨害罪等に問われ、逮捕されることがあります。

実際に邦人が逮捕されたケースも発生していますので、この点十分にご留意ください。子供を連れて日本に帰ることを希望する場合は、まず弁護士等に相談してください。

(4) 少年夜間外出禁止令

米国の多くの都市では、少年夜間外出禁止令 (Curfew) が制定されており、一定の年齢未満の少年が、規制された時間帯に保護者 (保護者に託された者を含む) を同伴せず外出していた場合、違反となります。また、事情を知らず少年を外出させていた保護者も違反となります。

違反者には罰金 (シカゴでは 500 ドル以下)、または社会奉仕、あるいは、その両方が課されます。一年間に 3 回違反すると、1,500 ドル以下の罰金、または、社会奉仕、あるいはその両方が課されるというシカゴのように、違反が重なると厳罰となる場合もあります。

夜間は昼間に比べて犯罪が多発しており、少年が犯罪に巻き込まれる可能性が非常に高いので、外出禁止令の有無に関わらず、お子様達を単独で外出させないようにご注意ください。

規制時間帯は都市によって異なりますので、詳しくはお住まいの町の条例をご覧ください。

Ⅲ テロ、大規模自然災害等緊急事態発生時の対応

米国において緊急事態として予想されるものには、テロ、ハリケーン、竜巻、集中豪雨、ブリザードなどがありますが、これらに対する皆さんの安全対策は万全でしょうか。身近な犯罪には安全対策を講じていても、自然災害への対応は十分でないこともあります。自然災害は全く予想できないこともありますので、日頃からその対応策を考えておく必要があります。

1 在留届の提出

(1) 在留届とは

海外に3か月以上滞在される方は、滞在先を管轄する在外公館（大使館、総領事館）に在留届を提出することが旅券法により義務づけられています。当館管轄区域にお住まいで、まだ在留届を提出されていない方は、提出をお願いします。

(2) 在留届のメリット

在留届が提出してあれば、大規模自然災害等の緊急事態が発生した際、在外公館が在留届の内容を基に皆様方に連絡を行い、各種情報の提供や皆様の安否確認を行うことができます。逆に、在留届の提出のない方については、当館で所在を把握できないため、当館からの連絡や情報提供が困難になります。

(3) 当館メールマガジン

在留届提出の際、メールアドレスを当館にお届けしていただくと、当館より当地で生活する上で有益と思われる安全情報や領事関連情報、広報・文化行事関連情報、経済情勢等の各種情報を掲載したメールマガジンを配信致します。（不定期配信。詳細は当館ホームページをご覧ください。）

<http://www.chicago.us.emb-japan.go.jp/indexjp.html>

(4) 変更届

既に当館に在留届を提出されている方で、住所、電話番号、メールアドレス等の記載事項に変更がある場合は変更届の提出をお願い致します。また、帰国等、当地から転出される場合は、必ず転出届の提出をお願いします。

(5) 提出方法

在留届及び変更届の用紙に記入の上、当館領事窓口へ提出していただくか、または郵送、FAXで当館宛に送付して提出することもできます。用紙は当館領事窓口へ備え付けてあります。遠方の方は連絡を頂ければ郵送致しますし、領事出張サービスを利用して

提出することもできます。用紙は当館ホームページからもダウンロードできます。

その他、外務省の「在留届電子届出システム（ORRnet）」を利用し、インターネットを通じて提出することも可能です。（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>）

詳しくは当館ホームページをご覧ください。

2 平素の準備

- (1) 家庭や職場などで、自然災害等の緊急事態が発生した場合の集合場所を予め決めておく。場所は2ヶ所決めます。一つは家のすぐ近く。もう一つは近所の建物、例えば図書館やコミュニティーセンター、教会などです。
- (2) 自宅付近の病院、最寄りの警察署、総領事館等の所在地、連絡先を予め確認しておく。（リストの作成）
- (3) 緊急事態発生時に家族がばらばらになってしまったときのために、家族のメンバーが電話できる州外の友人または親類を決めておく。市内回線が繋がらない場合は、遠距離電話の方がつながりやすいこともある。
- (4) 家庭や職場などで、テロ・自然災害等の緊急事態を想定した訓練を実施する。
- (5) 災害時必需品の準備（別添チェックリスト参照）

3 発生時の措置

- (1) 避難の指示が出された場合には、直ちに指示に従う。
- (2) 沈着冷静な行動を心がける。根拠のない「噂」に惑わされない。
- (3) 群集心理に影響されない行動をとるように注意する。
- (4) 暴動等が発生した場合、暴徒には近寄らないように注意する。
- (5) ラジオ、テレビ、インターネット等から、情報入手に努める。

4 テロ関係

- (1) テロ情勢
米務省は、米国民及び米国権益を対象としたテロ攻撃や反米暴力活動の脅威は依然

として存在するとして警告を発しています。シカゴ市は、高層ビルが建ち並ぶ全米第3位の都市であり、また、オバマ大統領の出身地でもあることから、当地治安当局では、シカゴ市がテロの攻撃の対象となる可能性は非常に高いと認識しています。

更に、I S I Lが日本人を標的にすると表明したことにより、在留邦人・日系企業等が直接テロの標的となる可能性もあります。

(2) テロ対策

- ア 外務省「海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)」や当地のテレビ、ラジオ、新聞等の関連記事に関心を持ち、常に最新の関連情報の入手に努める。
- イ 空港、駅、政府施設、スタジアム、アリーナ等、テロの標的となる可能性のある施設には、用事がないときにはできるだけ近付かない。訪れた際は、周囲の状況その他の動向を観察して、不審者や不審物件等の危険な兆候がないか注意する。
- ウ 不審者や不審物件を見かけたときは、直ちに911番に電話し、警察に通報する。

5 オンライン安否照会システム

(1) オンライン安否紹介システムとは

外務省は、2011年7月より、海外での大規模緊急事態の際に外務省海外安全ホームページ上で邦人の安否を確認する新しいシステム「オンライン安否照会システム」を開設しました。

「オンライン安否照会システム」とは、海外で大規模な災害・事件が発生して邦人が多数巻き込まれる可能性がある場合に、外務省の海外安全ホームページ上で安否照会を本邦及び海外の照会者が依頼することができるシステムです。照会者は、受付の際に与えられる受付番号とパスワードにより、その後いつでも、外務省や在外公館が実施する安否確認の結果や情報の更新を同ホームページ上で確認することができます。

(2) オンライン安否紹介システムの利用方法

本システムは、大規模な緊急事態が発生した際にのみ外務省の海外安全ホームページ上に立ち上げられ、利用が可能となります。平時はホームページ上に利用案内のみが掲載されています。災害・事故が比較的小規模な場合は、これまで同様、安否照会は海外邦人安全課（誘拐・テロの場合は邦人テロ対策室）で受け付けます。なお、本システムは、災害・事件の発生から1か月を経過した時期を目処に閉鎖することになります。引き続き、安否の確認が必要な場合は、外務省海外邦人安全課等が直接の窓口となります。

原則として、安否照会の対象は日本人です。また、混乱を避けるため、照会者は被照会者の二親等以内の親族に限定させていただきます。なお、利用料金は無料です。詳しい利用方法は外務省海外安全ホームページをご覧ください。

「海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)」

6 たびレジ

(1) たびレジとは

たびレジは、3ヶ月未満の期間で海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録することで、滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などを受け取ることができるシステムです。情報を受け取るメールの宛先として、ご自身のアドレス以外にご家族や職場のアドレスも登録できます。

(2) たびレジの登録方法

外務省のホームページから簡単に登録することができます。詳しくはホームページをご覧ください。(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

日本から海外へ行かれる方だけでなく、在留邦人の方も、当館管轄区域外へ短期の旅行や出張をされる際には、ぜひ登録してください。

7 シカゴ地域緊急連絡先

●在シカゴ日本国総領事館

737 N. Michigan Ave. Chicago, IL 60611 U. S. A.

Tel:1-312-280-0400

Fax:1-312-280-9568

ホームページ : <http://www.chicago.us.emb-japan.go.jp/indexjp.html>

●警察, 救急, 消防 : 911

●警察 : 緊急時以外

シカゴ市警察 : 312-744-4000

アーリントンハイツ警察 : 847-368-5300

シャンバーグ警察 : 847-895-4500

ホフマンエステイツ警察 : 847-781-2800

●緊急事態

イノイ州非常事態庁 (I E M A) : <http://www.state.il.us/iema/index.asp>

連邦緊急事態管理庁 (F E M A) : <http://www.fema.gov/>

国土安全保障省 : <http://www.ready.gov/>

●外務省「海外安全ホームページ」 : <http://www.anzen.mofa.go.jp>

緊急事態に備えてのチェックリスト

1 旅券

- 6か月以上の残存有効期間があるか
- 最終ページの「所持人記載欄」は記載しているか
- 血液型を記載しているか
- その他の写真付き ID はあるか

2 現金等

- 現金
- 貴金属
- 貯金通帳, 有価証券
- クレジットカード

3 自動車

- 整備されているか（特にバッテリー）
- ガソリンは3分の2以上あるか
- 車内に, 懐中電灯, 地図等は備えているか

4 携行品

- 衣類, 着替え（長袖, 長ズボン, 吸湿性, 耐暑性及び耐寒性に富むもの）
- 履き物（靴底が厚く頑丈なもの）
- 洗面用具（タオル, 歯磨きセット, 石けん等）
- ラジオ, 携帯電話, 充電器, 電池（多量）
- ライター, マッチ, ろうそく, 固形燃料
- ナイフ, 缶切り, 栓抜き, 簡易軽量食器, 割り箸
- 毛布, 寝袋, 雨具

5 非常用食料

- 保存食（米, 調味料, 缶詰類, インスタント食品, 粉ミルク等）
- ミネラルウォーター（目安：1人1日当たり1ガロン）
- 家族全員で1週間分が確保されているか

6 医薬品

- 家庭用常備薬・常用薬, 外傷薬, 消毒薬, 包帯・絆創膏

州	都市	人口	凶悪犯罪	殺人	強姦 (新定義)	強姦 (旧定義)	強盗	傷害	財産犯罪	侵入盗	窃盗	乗り物盗	放火
ILLINOIS	Arlington Heights	75,978	42	0		7	7	28	800	125	659	16	6
	Buffalo Grove	41,774	8	0		0	1	7	333	38	285	10	1
	Champaign	82,966	654	4		39	119	492	2,275	506	1,698	71	9
	Chicago	2,720,554		414			11,815		95,908	17,775	65,497	12,636	403
	Elk Grove Village	33,414	25	0		4	7	14	624	89	501	34	3
	Evanston	75,709	189	1		10	63	115	1,902	361	1,474	67	12
	Hoffman Estates	52,422	55	0		16	21	18	548	102	426	20	2
	Palatine	69,317	33	0		8	12	13	664	27	622	15	6
	Rolling Meadows	24,283	23	0		6	6	11	266	21	243	2	0
	Schaumburg	74,940	71	0		15	30	26	2,176	175	1,928	73	6
	State Total	12,882,135	48,974	706	4,263	3,276	17,722	26,283	292,983	58,237	213,813	20,933	
INDIANA	Bloomington	82,415	275	2		34	78	161	2,606	516	1,942	148	35
	Carmel	84,880	20	0		4	11	5	744	128	573	43	0
	Columbus	45,874	82	1		17	19	45	2,124	241	1,754	129	3
	Evansville	120,284	564	5		54	211	294	5,859	996	4,371	492	48
	Fishers	83,358	16	0		2	7	7	826	78	719	29	1
	Greenwood	53,208	200	1	1		9	189	1,908	175	1,645	88	5
	Indianapolis	850,220	10,479	129	656		3,800	5,894	44,606	13,445	26,156	5,005	317
	Lafayette	68,173	389	2	35		67	285	3,416	718	2,466	232	13
	Seymour	18,655	100	0		7	6	87	1,201	143	958	100	2
	West Lafayette	30,687	37	0		6	6	25	536	90	430	16	0
	State Total	6,570,902	23,487	355	2,142	1,646	7,108	13,882	187,536	42,909	130,423	14,204	
IOWA	Ames	61,193	88	0	34		11	43	1,439	224	1,181	34	10
	Bettendorf	34,548	86	0	8		7	71	495	84	399	12	4
	Cedar Falls	40,213	52	0	19		3	30	495	80	391	24	3
	Cedar Rapids	128,642	392	4	46		90	252	4,707	977	3,433	297	19
	Coralville	19,949	44	0	15		11	18	627	74	542	11	4
	Davenport	101,834	654	2	88		167	397	4,248	961	3,048	239	30
	Des Moines	207,391	1,026	11	90		211	714	10,015	2,311	6,854	850	33
	Iowa City	70,855	228	0	28		56	144	1,850	357	1,411	82	7
	Oskaloosa	11,570	49	1	6		2	40	230	65	157	8	0
	West Des Moines	60,068	90	1	16		12	61	1,658	205	1,377	76	3
	State Total	3,090,416	8,388	43	1,083	757	939	6,323	67,800	15,868	47,686	4,246	

州	都市	人口	凶悪犯罪	殺人	強姦 (新定義)	強姦 (旧定義)	強盗	傷害	財産犯罪	侵入盗	窃盗	乗り物盗	放火
KANSAS	Lawrence	90,034	338	1	50		74	213	3,625	493	2,959	173	19
	Leawood	32,748	13	0	1		2	10	384	47	320	17	1
	Lenexa	49,777	58	0	9		11	38	895	106	713	76	1
	Olathe	131,342	185	2		37	23	123	2,273	217	1,877	179	19
	Overland Park	180,555	284	2		33	45	204	3,530	404	2,846	280	15
	Shawnee	64,060	87	2	15		17	53	1,087	170	760	157	8
	Topeka	128,009	612	11		33	172	396	6,486	1,238	4,679	569	7
	Wichita	386,486	3,065	15	244		468	2,338	20,802	3,933	14,885	1,984	113
	State Total	2,893,957	9,838	112	1,195	835	1,350	7,181	85,280	17,375	61,264	6,641	

MINNESOTA	Eden Prairie	62,714	39	1	10		7	21	894	83	788	23	3
	Edina	49,405	16	0	7		5	4	937	80	835	22	1
	Minneapolis	396,206	4,038	36	385		1,856	1,761	19,358	4,601	13,182	1,575	124
	Moorhead	39,322	38	1	3		6	28	847	158	645	44	6
	Plymouth	73,684	49	0	21		5	23	1,141	186	903	52	6
	Rochester	109,675	214	0	50		54	110	2,558	429	2,026	103	8
	St. Cloud	65,977	250	1	56		46	147	2,842	371	2,308	163	25
	St. Louis Park	46,723	68	1	5		25	37	1,288	188	1,037	63	7
	St. Paul	294,690	2,200	14	218		716	1,252	10,973	2,769	6,443	1,761	112
	Woodbury	65,259	21	0	0		7	14	1,386	184	1,166	36	0
	State Total	5,420,380	12,705	114	2,008	1,403	3,674	6,909	131,195	22,713	100,516	7,966	

MISSOURI	Brentwood	8,030	12	0	4		5	3	298	24	263	11	0
	Cape Girardeau	38,716	258	5	12		85	156	1,990	446	1,487	57	6
	Chesterfield	47,744	25	0	2		6	17	685	61	608	16	0
	Clayton	15,901	13	0	3		4	6	210	43	154	13	0
	Columbia	114,587	416	5	67		112	232	4,359	703	3,490	166	14
	Kansas City	465,514	5,864	99	377		1,662	3,726	24,648	6,412	13,949	4,287	207
	Perryville	8,270	15	0	1		1	13	164	25	124	15	1
	Springfield	163,062	1,894	12	281		395	1,206	14,691	2,313	11,232	1,146	63
	St. Charles	66,628	113	0	17		27	69	1,770	201	1,502	67	12
	St. Louis	318,563	5,077	120	333		1,457	3,167	21,087	4,305	13,452	3,330	179
	Warrensburg	19,958	36	0	9		6	21	575	92	454	29	8
	State Total	6,044,171	26,197	371	2,287	1,599	5,484	18,055	189,606	38,865	134,416	16,325	

州	都市	人口	凶悪犯罪	殺人	強姦 (新定義)	強姦 (旧定義)	強盗	傷害	財産犯罪	侵入盗	窃盗	乗り物盗	放火
NEBRASKA	Bellevue	53,023	70	0	13		28	29	963	138	717	108	5
	Fremont	26,098	45	0	27		3	15	656	99	535	22	8
	Hastings	25,012	54	0	23		4	27	922	198	689	35	4
	Kearney	32,113	56	0	16		5	35	825	134	663	28	5
	La Vista	17,790	7	0	1		3	3	215	27	170	18	1
	Lincoln	267,565	990	5		142	212	631	9,354	1,423	7,625	306	40
	Omaha	425,076	2,449	42		184	718	1,505	19,108	3,509	12,519	3,080	83
	Papillion	21,274	10	0	5		4	1	373	34	322	17	1
	Seward	7,063	6	0	1		0	5	85	8	75	2	0
	York	7,875	1	0		0	0	1	196	20	162	14	0
State Total	1,868,516	4,897	57	801	616	1,040	2,999	49,018	8,900	35,655	4,463		
NORTH DAKOTA	Bismarck	65,850	194	1	26		15	152	1,730	334	1,289	107	6
	Fargo	111,101	446	3	71		58	314	3,209	701	2,342	166	13
	Grand Forks	53,625	144	0	30		25	89	1,343	191	1,084	68	3
	Jamestown	15,286	42	0	22		1	19	362	73	269	20	2
	Minot	44,635	122	0	14		18	90	997	181	708	108	12
	Powers Lake	314	0	0	0		0	0	10	1	8	1	0
	West Fargo	28,018	44	0	10		3	31	530	147	336	47	2
	State Total	723,393	1,954	16	330	230	162	1,446	15,148	2,934	10,798	1,416	
SOUTH DAKOTA	Box Elder	9,079	30	0	10		0	20	182	77	96	9	2
	Brookings	22,741	9	0	1		0	8	77	9	62	6	0
	Mitchell	15,555	63	0	9		2	52	479	62	395	22	4
	Pierre	13,996	31	0	13		2	16	412	43	357	12	0
	Rapid City	70,406	398	2	63		48	285	2,629	578	1,902	149	18
	Sioux Falls	161,754	636	3	138		67	428	4,930	870	3,796	264	27
	Spearfish	10,778	8	0	4		0	4	231	48	170	13	1
	Vermillion	10,892	31	0	5		0	26	224	20	202	2	0
	State Total	844,877	2,674	20	499	349	159	1,996	16,177	3,372	11,867	938	

州	都市	人口	凶悪犯罪	殺人	強姦 (新定義)	強姦 (旧定義)	強盗	傷害	財産犯罪	侵入盗	窃盗	乗り物盗	放火
WISCONSIN	Appleton	73,141	176	1	28		14	133	1,304	186	1,088	30	15
	Beloit	36,817	129	1		16	36	76	1,195	320	830	45	9
	Brookfield	37,996	30	0		0	18	12	1,086	98	979	9	0
	De Pere	24,314	7	0		1	3	3	283	41	239	3	0
	Eau Claire	67,309	123	1		22	14	86	1,570	235	1,287	48	7
	Green Bay	105,107	500	2	52		79	367	2,674	575	2,001	98	16
	Kenosha	100,418	274	5		26	102	141	2,462	563	1,826	73	23
	Madison	242,523	884	5	76		296	507	7,729	1,382	6,094	253	50
	Milwaukee	600,805	8,194	104	401		3,284	4,405	27,013	6,491	16,138	4,384	293
	Superior	26,737	92	1		22	22	47	1,622	279	1,243	100	5
	State Total	5,742,713	15,961	162	1,687	1,296	4,834	9,278	125,688	24,347	93,953	7,388	
United States Total		316,128,839	1,163,146	14,196	108,612	79,770	345,031	724,149	8,632,512	1,928,465	6,004,453	699,594	

本資料は、FBIが公表したデータを基に、在留邦人の比較的多い都市を抽出して取りまとめたものです。

凶悪犯罪とは、殺人、強姦、強盗、傷害の4つを指します。

財産犯罪とは、侵入盗、窃盗、自動車盗、放火の4つを指します。

各都市の犯罪集計方法がFBIと異なったり、各都市が統計を報告していない場合は、空欄となっています。